



保
險
案

1-14
卷
第
三
號

大藏省火
災保險取
調掛之印

32
7



114
A3617
15



但書
災危殆ノ度十倍超越ストイヘ氏之レ其保険料ヲレニ
レク十倍ナラシムベシト云フ義ニ非ス何ントナレハ凡ソ保
料ナルモノハ獨リ火災ノ一事ニ止ラス其他尚オ敷 事件則チ
地震戦争暴風雨洪水ニ對スル保險費ニ行務消防及ニ準備金
等ノ如キ之ナリノ九ソ火災危殆ニハ毫モ關係ナキモノヲ總括
レ以テ之カ高ヲ定メラルベケレハナリ

乙 隣接ノ關係

隣接ノ關係ハ必ラス之ヲ著目スルヲ要センカ則チ然ル所以ノ
モノハ凡ソ同一ノ地方ニ在ケルトイヘ氏火災ニ對シ堅牢ナラ
サル家屋獨立シテ四隣空間ナルカ將々比々相近接セルカ且ツ
近接ノ状ハ甚ッ粗カ密カニ關係願ル著大ノ差異アルモノナレ
ハナリ総テ火災危殆ノ距離内ニ不堅牢ナル隣屋ヲ有スルハ愈

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

多キ時ハ其外方ヨリ延焼ノ^ハ益々大ナリ故ニ此害感ノ状
 如何ハ豫メ保險藉上ニ登録レ置キ因テ了解セラルハ要ス而
 ノ凡ソ三間以内ノ距離ニ於テ火災危殆ノ隣屋ヲ有スルモノハ
 其接面ノ多少ニ從ヒ左ノ如ク保險料ヲ高ク為シ得ベシ則テ
 其一側面ニ之レアル時ハ 保險料ニ一層ノ増額ヲ加フ
 兩側面ニ之レアル時ハ 二層ノ増額ヲ加フ
 三 面ニ之レアル時ハ 三層ノ増額ヲ加フ
 四 面ニ之レアル時ハ 四層ノ増額ヲ加フ
 通常邸第ハ一家屋ヨリ成ルノミナラス或ハ其内屋ニ教室ノ相
 雜居スルアリ故ニ其各家屋ニ對シテハ保險藉申別^リヲ設ケテ
 之レニ該家屋一層二層三層乃至四層ノ増額ニ係ルヲ記シ先
 ニ第二劃ヲ設ケ之レニ該家屋ノ評定價ヲ登録スベシ
 前ニ反レテ隣屋ノ關係如何ハ之レヲ保險藉上ニ着目ス可ク

ラスト為ス次^ニ若シ果レテ之レヲ保險藉上ニ登録スル時ハ
 該藉為^ニ大イニ錯雜ヲ生シ且ツ毎時變易スヘキ著大ノ原素
 ヲ該藉中ニ填充スルモノナリ^{例スルニ}若シ一屋ヲ四家ノ中央ニ建
 築スル者アル時ハ獨リ此新築ヲ保險藉中ニ登記ス^キノミナ
 ラス四個隣屋モ亦為^ニ其藉ヲ變更セラルベシ又然ル時此四
 個隣屋ハ年々其保險料増額ヲ約付スベキナ故ニ四隣齊^シク新
 家ヲ憎惡スベキナラン且ツ近隣ノ關係如何ヲ着目スル時ハ勿論
 其情況ニ關シ或ハ本地一般平均保險料以下ニ減却スル^トアル
 ベレトイヘ其之レニ反スル場合ニ於テハ遠ク本地ノ平均價
 ヲ越ヘ其賦金ヲ増加セラル、ア甚レクラン
 獨逸國公立保險局ニ於テハ近隣ノ關係如何ハ豫メ之ヲ着目セ
 ス但シ該局ハ全ク之ヲ不問ニ付シ得ベキ所以ノ事由アリ其各
 市街ニハ必ズ^レ仮令^レ石造家屋^ノハ^レ所謂防火壁ナルモノア

リ該壁障ハ全面中絶テ木材ヲ用ニテ兩家屋ノ中間ニ在テ能ク其延焼ヲ防遮スルモノナリ從テ私有保險社モ亦其隣屋ニ関スル狀況如何ヲ藉上ニ登録スルヲ須ヒス但シ私立會社相互ノ競争ヲ以テ能ク為レ得ベキニ於テハ其保險ヲ受ケント欲スル者ニ望ミテ其隣接ノ狀況ニ拘ハリ多少保險料ヲ高クスルヲ有ルベキノミ

爰ニ日本ニ於テハ防火壁ノ諸家屋ヲ相ヒ分割セルモノナク且ツ村落ニ於テモ其家屋多ク相ヒ接近スルヲ蓋シ獨逸國村落ノ比ニ非サレハ隣接ノ關係及ヒ其火災危殆ニ関スル狀況ヲ籍上ニ登録シ爰ニ之ヲ著目セラルハ假令爭突困難ナリトイヘモ亦其當ヲ得タリト云フベシ

ハ
屋根ノ關係

瓦屋根、葺鏡、板屋根ハ外方ノ延焼ニ對シ堅牢不感ノモノト云フベシ之レニ反シテハ板屋根ハ火災ノ危殆多キモノナレハ從テ其保險賦金モ亦前ヘノ三種ヨリ高ク之レヲ受クベシ但シ幾許之ヲ高カラシムレハ則チ可ナルヤハ今屋根ノ火災危險ニ關係アル度ヲ左ノ比較表ニ舉示レ以テ之レヲ明辨セント欲ス則チ

明治第十一年一月一日ヨリ同ク十月三十一日迄東京ニ於テ燒失セシ木材家屋左ノ如シ

瓦屋根平均五百九十五家	
同二階家三百十八家	
同物置 十七家	
瓦屋根燒失總計千九百三十家	壹万四千八百四十八坪。七
當時瓦屋根總計五千八百三十三家	百〇八萬二千七百六十六坪五八

則チ總坪百分ノ六五

板屋根卒家千二百三十家 一万二千五百七十四坪一一
 同 二階家二千三百十二家 二万〇八百七十一坪四四
 同 物置 百四十二家 九百七十坪五〇

板屋根焼失統計三千六百八十四家 三万五千四百十六坪。五

従来存在板屋根家屋統計四万九千三百九十九家 百万〇。八千三百八十二坪一七

則ち百分一三、五一

同市街且ツ同時ニ於テ又隣接ノ状況同等周圍ノ辟端同種類ニ
 レテ唯タ殊ナル所ハ瓦屋根ニ反シ板屋根ナルノミヲ以テ焼失
 上大差異ヲ生シタルヲ右ノ如シ則チ其瓦屋根ニ係ル本材家屋
 ノ焼失ハ百坪ニ付キ平均一、六五ナリトイヘ其板屋根ニ在テ
 ハ同レク本材家屋百坪ニ付キ三、五一則チ其焼失ニ倍以上ノ多
 キニ及ヒタリ

但シ藁葺家屋ハ板屋根家屋ヨリ一層火災ニ危殆ナルハ各人己
 ニ知ル所ニシテ復タ無用ノ辨ヲ要セス然リ而シテ爰ニ若シ第一

ニハ家屋焼失待目統計表第二ニハ従来村落中ニ於テ火災ニ堅
 牢ナル家屋ノ数先ニ板屋根藁屋根家屋類別表ノ存在セハ願フ
 ニ右板屋根藁屋根ノ火災危殆ナル等差ヲ算数上精密ニ確定ス
 ルト蓋シ亦難キニ非ナルベシ然ルニ僕此統計表ヲ保持セズ其
 儘カニ領スルモノハ特リ東京府管轄内ニ係ルモノハ猶才且
 ツ藁葺家屋ノ如キハ府下市街ニハ一モ之レナク唯タ其周邊若
 クハ未引外及ヒ行政上唯タ同府ノ管轄ニ係ル諸村落ニノミ之
 レアルガ故ニ復タ同等ノ地位ニ就テ比較對照スル能ハス先ニ
 僕同村落及ヒ同未引外市街ニ於ケル板屋根家屋ノ特別統計表
 ヲ所有セス但シ東京統計表中ニ記載セル板屋根家屋ノ多数ハ
 本府内則チ火災上其地位頗ル危険ナル大都下ニアリ此地位ヨ
 リ生スル害感ハ實ニ甚シキモノニシテ若シ人其起因ヲ熟思セズ
 唯タ外見ヨリ視定スル時ハ蓋シ板屋根ハ藁屋根ヨリ火災ニ對

レ一層危殆ナルモノト誤認スレニ至ルベシ

則チ前へニ記載セル如ク一千八百七十八年一月一日ヨリ同
ク十月三十一日迄ニ焼失セシモノ左ノ如シ

藁葺屋根 二百三十家 二千四百十六坪

葺及皮屋根総計三万五千三百三十八坪

則チ焼失小総坪百分ノ二六

之レニ及レテ板屋根家屋焼止左ノ如シ

板屋根 三千六百八十四家 三万五千四百十六坪。五

則チ焼失小総坪百分ノ三、五一

板屋根総計四万九千九百九十二家 百万。八千三百八十二坪二

蓋シ地位ノ如何ヲ反思マハ一ニ板屋根家屋ハ藁屋根家屋ヨリ
火災ニ危殆ナルト一倍三半ニ及フト為サハ亦之レヲ謬戾妄認
ト謂フベキノミ僕已ニ上文ニ地位ノ感應ヲ算定シテ曰ク東京
市街ノ家屋ハ朱引外諸町村ヨリ火災ニ危殆ナルト八倍三ノ息
シキモノト故ニ今若シ右ノ誤認ヲ釐正スベキ為メ其一倍三半

ナルモノヲ八倍一ヲ以テ除ク時ハ東京村落ニ對シ府下市街ノ

市街トモ對照セシムルノミナラズ尚オ朱引外ニ係ル市街及

ト往々東京ト相連絡セル村落ノ藁葺板屋根ハ村落中藁屋根ニ

於ケルヨリ一倍六ノ火災ニ危殆ナル結果ヲ得然レモ之レ猶オ

未タ不正妄認ヲ脱セサルモノナリ

但シ東京府下市街ニ於ケル家屋隣接ノ状ハ朱引外村落及ヒ市

街ニ於ケルモノニ殊ナルトモ亦爰ニ回思ヲ要スルノ一事タリ

夫レ府下市街ニ於テハ各家屋大抵三面若クハ四面ヨリ火災危

殆ノ家屋相接近ストイヘモ其村落ニ於テハ概スルニ唯タ沿街

駢立ノ縦面ニ於テノミ隣屋相接シ且ツ其間ニハ園圃アリ以テ

各自家屋ヲシテ太抵三間以上相離隔セルムルヲタリ右ノ如ク

府下市街ニ在テハ太抵家屋三面乃至四面ヨリ危険ヲ受クル故

ニ予ハ平均シテ之ヲ三面半ヨリ受クルト云又村落ニ於テハ一

面若クハ二面ヨリ之ヲ受クルガ故ニ則チ之ヲ一面半ト為ス斯
ノ如キ隣接ノ關係ヨリ生スル不同ノ状ヲ平均スヘキ為メ已ニ
得タル東京市街板屋根ノ比較數一倍六ヲ右三、五ヲ以テ除キ及
テ東京村落藁屋根ノ比較數一、五ニテ割ル時ハ板屋根ノ
藁屋根ニ於ケル比例ハ $\frac{1.5}{3.5}$ ト $\frac{1.5}{5.5}$ タリ則チ再言セハ〇、四五七
ト〇、四五七ト〇、六六七ニシテ殆シトニト三ノ割合ニ相当セル
結果ヲ得ルモノナリ

故ニ今割合ノ不同ナルモノヲ差引ク時ハ

瓦屋根ハ火災危殆ニ於テ

一ニ同シク

板屋根ハ

二ニ同シク

藁屋根ハ

三ニ同シキトヲ知ル

此結果ニハ尚オ別ニ信用スベキ正當ノ理由自ラ存スルアリ則
チ板屋根家屋ハ火災危殆ノ點ニ於テ瓦屋根ニ比スルニ二倍甚

シク更ニ又藁屋根ハ板屋根ヨリ唯チ半倍ノ多キヲ有スルノモ
之ヲ再新セハ凡ソ火災ニ對シ堅牢ナル屋根及ヒ不堅牢ナル屋
根ノ間ニ生スル差ハ兩不堅牢ナル屋根ノ間ニ於ケルモノヨリ
其差更ニ著大ナルモノナリ

二 周圍壁牆ノ關係

本件ニ關スル精密ノ統計表具テサルヲ以テ予ハ今仮リニ觀官
ト共ニ推定ニ因リ其缺漏ヲ補綴セサル能ハス則チ已ニ瓦屋根
家屋ハ板屋根家屋ニ比較シテ一、二ノ割合ニ當ルヲ著目シ得
タルガ故ニ再ヒ又爰ニ周圍石牆ノ家屋ハ一ニシ其木壁ハ二ノ
比例ニ當ルモノト為シ得ベレ而シテ更ニ粘土若クハ煉石灰ヲ塗
抹セル壁牆ヲ有セル家屋之ナリ而シテ此家屋ハ右比例ノ中數
則チ一、五ヲ与ヘ得ベシ

ハ及ニ

屋根及ヒ周圍壁牆ノ共有感應

火災保險上其實際ニ於テハ屋根及ヒ周圍壁牆ノ感應ヲ合テ以テ一トス但シ其合一ハ右屋根ト周圍ノ壁牆トヨリ生スル諸種比較數ヲ或ハ相々加算シ或ハ相乘シテ以テ得ルモノナリ就中其加算主義ハ周圍ノ壁牆ヲ屋根ニ加付レ併テ以テ之ヲ一面ト為スモノナリ又乗方主義ハ屋上一部分ノ火災ニ對シ尤モ危殆ナルモノノ設例ハ屋根ヲ他ノ部分(設例ハ周圍壁牆)ニ分付スルモノナリ

予ハ本論中已ニ左ノ比例ヲ記載セリ

- 瓦屋根 一 板屋根 二 藁屋根 三
- 周圍石壁 一 塗屋 一、五 板壁 二

今之レヲ加方主義ニ本ツキ算定セル時ハ其結果左ノ如シ

周圍壁牆

屋根	瓦	一	一三ヲ加フ則チ二	塗壁	一、五	木	二
	板	二	二二ヲ加フ則チ三		一三、五ヲ加フ則チ二五		二二ヲ加フ則チ四
藁	三	三三ヲ加フ則チ四	三三、五ヲ加フ則チ四五	三三、五ヲ加フ則チ四五	三三ヲ加フ則チ五		

或ハ又乗方主義ニ本ツク時ハ左表ニ掲クルモノ、如シ

周圍壁牆

屋根	瓦	一	一一ヲ乘ス則チ一	塗壁	一、五	木	二
	板	二	二二ヲ乘ス則チ二		一一、五ヲ乘ス則チ一五		二二ヲ乘ス則チ四
藁	三	三三ヲ乘ス則チ三	三三、五ヲ乘ス則チ四五	三三、五ヲ乘ス則チ四五	三三ヲ乘ス則チ六		

先キノ加方主義ニ係ル表ハ其數ヲ相々比較シ得ベキ為メ瓦屋根石造家屋ニ對スル單一數ヲ以ラル他ノモノヲ除ク時ハ其結果左ノ如シ

周圍壁牆

屋根	瓦	二二三割ル則チ一	二五三割ル則チ一、二五	三三三割ル則チ一、五
	藁	三三三割ル則チ一、五	四三三割ル則チ二、五	五三三割ル則チ二、五
板	石	二二三割ル則チ一	二五三割ル則チ一、二五	三三三割ル則チ一、五
	瓦	三三三割ル則チ一、五	四三三割ル則チ二、五	五三三割ル則チ二、五

右加方主義ニ拠テ算定セル第二表及ヒ上ノ乘方主義ニ係ル表
 紀ノ兩間中央ニ稍々正確ナル火災危殆ノ比準數ヲ看出レ得々
 リ故ニ更ニ一層正当ナル材料ヲ有セサル間ハ姑ク算數上ノ中
 點ニ拠リ認定スルヲ左ノ如シ

周圍壁牆

塗壁

木

藁

二二三割ル則チ一、二五

二五三割ル則チ一、二五

三三三割ル則チ一、五

今予ハ此結果ヲ依リニ(王國)「バ、リヤ」ノ火災保險局ニ於テ家屋
 付キ實際確定セルモノト比較セント欲ス則チ其第五十九條
 第一項ニ曰ク各家屋ノ保險料ハ其保險價ノ大小及ヒ火災危殆
 ノ度ニ從テ之レガ等差ヲ序ツルヲ左ノ如シ

第一 石屋ニシテ石若クハ金屬ヲ以テ蔽底セルモノハ火災危
 殆ニ關シ之ヲ第一等トス

第二 木匠壁ノ家屋ニシテ全部石若クハ金屬ヲ以テ蔽底セル
 モノ之ヲ其第二等トス

第三 石屋ニシテ其屋根ニ一モ石若クハ金屬ヲ用ヒサルカ或
 ハ其一部分ノ之ヲ以テ蔽底セルモノ之ヲ第三等トス

第四 其他凡ソ石造ニ非サル家屋ハ火災危殆ニ關シ之レヲ第
 四等トス而シテ以上ノ四等ハ五六八九ノ割合ヲ以テ保險料ヲ納

付マレムベシ

故ニ「バ、リヤ」ニ於テハ其割合左ノ如シ

周圍壁 塙

石	屋根	
	瓦	板
第一等	五	八
第二等	六	九
第三等	八	九
第四等	九	九

周圍壁 塙

水	屋根	
	瓦	板
第一等	一、二	一、二
第二等	一、二	一、二
第三等	一、二	一、二
第四等	一、二	一、二

此割合ニ本ツキバ、リヤト日本トヲ比較スル時ハ其對數則チ

大歳

左ノ如シ

周圍壁牆

石

木匠壁

木

屋根	瓦		葦
	板	瓦	
	一、六	一、 <small>バ、リヤ</small>	一、六
	一、七五	一、 <small>日本</small>	二、五
	一、八	一、 <small>バ、リヤ</small>	一、八
	二、三七五	一、 <small>日本</small>	三、三七五
	一、八	一、 <small>バ、リヤ</small>	一、八
	三	一、 <small>日本</small>	四、二五

今談表ニ據リ以テ其前四行、比較數ハ互ニ相逐クレラ
 概スルニ著シキ差異ナキヲ看ル、バ、リヤ國ニ於テハ尚ホ他
 ノ四種家屋ヲ以テ瓦屋根ヲ具有シ、純石屋ニアラサルモ
 ノト同視セルコトヲ知ル但シ其同視仮定レテ平等ト為スモノハ
 實際上能ク有リ得ベカラズ唯タ勉メテ等級ヲ減少シ且ツ兼惡
 ノ築造方ニ係ル家屋所有主ニ其保險料ヲ輕カラシメント欲ス
 ルノ希望ヨリ生スルノミ現ニコイマシ全國火災保險局ハ全ク

之ヲ三等ニ區別シ其保險料納付ノ割合ハ二ト三及ヒ四ニ齊シ
 ク定メタリ後ニ日本ニ於テハ上章ニ説明スル所ニ本ツケハ蓋
 シ五等乃至六等ニ分定セラル、コト尤モ冀望スベキモノナリ予
 ハ今左ノ比例數ヲ以テ之ヲ六等(但シ分數ハ取舍シテ之ヲ全數
 トス)ニ區分セント欲ス

周圍壁牆

石

塗壁

木

屋根	瓦		葦
	板	瓦	
	第一等	一、	第一等
	第二等	一、四	第二等
	第三等	一、八	第三等
	第四等	二、四	第四等
	第五等	三	第五等
	第六等	四	第六等

己ニ上章ニ土藏造リ家屋ニ對スル火災保險料トシ一、三ヲ算
 出タリ因テ今場所ノ關係ヲ算外ニ措ク時ハ火災保險料ノ割合
 ハ左ノ如クナルベシ則チ

茅一等	一一、三二一ヲ乘シ則チ	一一、三
茅二等	一一、三二一、四ヲ乘シ則チ	一五、八二
茅三等	一一、三二一、八ヲ乘シ則チ	二〇、三四
茅四等	一一、三二二、四ヲ乘シ則チ	二七、一二
茅五等	一一、三三三ヲ乘シ則チ	三三、九
茅六等	一一、三三四ヲ乘シ則チ	四九、二
此割合ニ據リ又分數ヲ取舍シテ成數ニ合スル時ハ單一ノ保險料ヲ納付スベキ地則チ村落ノ如キハ其納付高凡ソ左ニ掲クルモノ、如シ		
茅一等	十	
茅二等	十五	
茅三等	二十	
茅四等	三十	

茅五等	三十五
茅六等	四十五
次キニ場所ノ關係ヲ着目シ之レハ右ノ割合數ヲ乘スル時ハ村落ニ對スル全成保險定價表ヲ成スモノナリ	
但シト郵ノ逆焼ニ對シ、頗ル堅牢ニシテ全ク不感着クハ殆シト不燃ト云フベキ茅一等家屋ノ火災保險料ニ付テハ豫メ着目スヘキモノアリ則チ該家屋ハ場所ノ廣狹ニ關シ(通常廣濶ナル時ハ火災ノ逆焼ニ於テ大ニ危険ヲ增加スルモノナリ)他ノ火災ニ堅牢ナラサル該家屋ニ於ケル如ク多ク其影響ニ感動セサルモノナリ因テ斯ノ種類ニ係ル家屋ニ在テハ保險料ノ基礎數ヲ乘方ヲ以テ増殖シ進ムト蓋シ亦他種ノ如クナルヲ要セス故ニ予ハ此家屋ニ對シ唯メ僅些ノ増殖ヲ加フベキモノトス例ハ左表ノ如キ住人ノ數ヲ有セル各地ニ於テ茅一等種類ニ属スル	

住民ノ数	一等 家屋保險料	二等 家屋保險料	三等 家屋保險料	四等 家屋保險料	五等 家屋保險料	六等 家屋保險料
二千九百	十	十五	二十	三十	三十五	四十九
五千	十五	三十	四十	六十	七十	九十
一萬	二十	四十五	六十	九十	百〇五	百三十五
二萬	二十五	六十	八十	百二十	百四十	百八十
四萬	三十	七十五	百	百五十	百七十五	二百二十五
八萬	三十五	九十	百二十	百八十	二百十	二百七十
十六萬	四十	百〇五	百四十	二百十	二百四十五	三百十五
三十六萬	四十五	百二十	百六十	二百四十	二百八十	三百六十
六十四萬	五十	百三十五	百八十	二百七十	三百十五	四百〇五
百廿八萬	五十五	百五十	二百	三百	三百五十	四百五十

クルヲ左ノ如シ

家屋ノ納ムベキ保險料ハ左ノ如シ	第一等家屋保險料
各地住民ノ数	
二千九百	十
五千	十五
一萬	二十
二萬	二十五
四萬	三十
八萬	三十五
十六萬	四十
三十二萬	四十五
六十四萬	五十
百二十八萬	五十五

已ニ先ヅ之ヲ陳述セシ後ニ更ニ諸等家屋ノ火災保險定價ヲ掲

大藏經

